

第3回「こうとう未来ミーティング」実施結果

開催日：令和6年7月9日(火曜日)
会場：小松橋区民館ホール
参加人数：25名(内、オンライン参加3名)
実施形態：参加者によるグループワーク(意見交換)



■主なご意見・ご提案等

【グループ1】

- ・ 人的支援、障害者の保護者を支えるボランティアや保護司など、江東区で頑張っている方が高齢化している。65歳を過ぎてきて体力的にも厳しい中で、親を支えるために寄り添いながら、新たなボランティアを教育する事業もしているが、とても苦勞している。
- ・ 助産師として母親たちに関わっていると、母親たちは、たとえ10万円もらっても100万円もらっても、不安はなくなる。安心というのは困ったときに助けてくれる人がいるなど、寄り添いが必要ではないか。
- ・ 高齢者の問題として、病院に行けないという問題や、実は助けてくれる場所があるのだが、そこに連絡しなかったり、そういう施設の存在に気付かないこともある。例えば、「地域食堂」のように、行くと何かちょっと良いことがある、メリットがあるような場所ができるとよい。
- ・ 日本人は産後すぐ頑張ってしまうので、産後ケアや無償で休める環境づくり等、休みやすいように変えていかないといけない。
- ・ 少子化の原因の一端は、若者の貧困ではないか。
- ・ 今の若い人たちにとって子育ては苦行で、最初にお子さんの抱き方から教えなければならない。父親学級や母親学級でもそうだろうと思うが、こどもと触れ合う機会が少ない。
- ・ 今の日本の性教育は生殖教育ばかりだが、性教育というのは自分の身を守る、人権教育だという視点を持っていただきたい。

【グループ 2】

- ・高齢化への対応では、誰もが孤立しない居場所づくりが大切なのではないかと。人と人とのつながりが防災対策にもつながる。
- ・災害時の病院の連携はどうなっているのかという疑問が出た。
- ・学校給食の有機農産減農薬をまずお米からだけでも実現し、日本の低い食料自給率を上げていくことで、農家を守り、こどもたちの健康も守っていききたい。
- ・水辺の活用として雨水をうまく利用したらよいのではないかと。
- ・インターナショナルスクールが最近できて人流が変わり、都バスに乗れない人たちが出てきたという問題もある。
- ・誰も孤立しない場所づくりに関して、私は、高齢の方でもこどもでも家族でも、お金がある人もない人も、元気な人も元気じゃない人も、誰でも来られるという食堂をやっている。しかし、「こども食堂」でないと区から助成してもらえない。こども限定ではなく助成していただけるとありがたい。助成金が出る場合でも、横とつながりたいと思っても「それは各自でやってください」という話だった。区がサポートして連携できたらやれることが増えると思う。
- ・防災について、避難所に行く際に持っていく物のマニュアルのようなものを、簡単でいいので、区でつくってほしい。例えば、歩きやすい靴を玄関に置いておく、使い慣れた枕や入れ歯を忘れてはいけないといった情報をみんなで共有できたらと思う。

【グループ 3】

- ・防災関係では、海に近い地域の津波が気になる。
- ・保育士さんの人材確保については、保育士さんの経済的な問題があるのではないかと。保育士がやめてしまい、保育園や幼稚園がなくなっている。区でも対応してもらいたい。
- ・区立小学校の教育に関して、学校の PC の活用状況が、江東区が求めている理想の形が現場で実現できていない。外部の大学生のチューターや民間の IT 人材の方が入ることで、先生の負担を軽減しながら、何か一助になることがあるのではないかと。

【グループ 4】

- ・ 日常生活の安全について、大きい道路に信号機をつけてほしいと警察に相談しているが、なかなか警察は応じてくれない。普段の生活の安全というところで、区にも関わってほしい。
- ・ 防災について、国の施設等が避難場所になっていても、土日だと閉まっているので「確認してから避難して」ということだが、その情報の窓口がわかりにくい。
- ・ 学校で配られている PC のこどもたちの利用状況を見て、うまく活用されてないなと思った。有名なゲームの教育版があり、こども達は自分からパソコンをいじって自分から学ぶことができるため、インストールの許可をしてほしい。
- ・ 踏切事故や園児のバス置き去り事故などが今後起こらないように、事故ゼロを目指して、予防の視点で行政がリードしてほしい。

【グループ5】

- ・ 町会長もいらっしゃったので話を聞いたが、防災対策、防犯への取り組みなどで、しっかりと避難先を確保されている町会があった。
- ・ 子育て支援について、病児保育の質の担保をしてほしい。病児保育を江東区では今後 2 カ所増やす予定だと思うが、委託料の増額により、その企業側、運営者への支援を厚くすることで、保育士への対応も含め、質を上げてもらいたい。
- ・ 都市整備について、「住みたい、住み続けたいまちを目指す」とのことだが、高齢化に伴って一人暮らしの方が家売って、家賃の安い区外に出て行くという方が増えているらしい。そのような状況を改善してほしい。
- ・ 地域コミュニティの 1 つとして車いす等何らかの障害のある方のコミュニティをもっと作れないか。「紹介」というキーワードで少し解決できるかもしれない。
- ・ 今マンションが増えてきていて、マンションの自治会によっては町会に入って街とのつながりというのを大事にしてくれているところもある一方で、そうではないところもある。どうやって町会に入るかわからず、入れてない人を少しでも減らしていくためにも、マンションの住人が町会とコンタクトを取ることを区の条例に定めて、町会に入るきっかけ作りをしていただきたい。継続的につながりを持つことで、防災対策の認知度も、町会を通して、地域に浸透させることができるのではないかな。

【オンライン参加者グループ】

- ・主に高齢者の福祉についての話題になった。長寿サポートセンターは、情報を得たり、実際にサポートしてもらう上でも非常に役に立ったという一方、実際にサポートが必要にならないとこのような施設について知る機会がなかった。若くて健康なうちから長寿サポートセンターに実際行ってみることができると良いし、存在を広く周知してほしい。
- ・うまくインターネットを使えない人、1人で住む高齢者などは、必要な情報にアクセスできないという問題がある。そこで、普段から地域コミュニティに入ってもらい、あるいは行政がそういった人に対して積極的に情報を提供するなど、何らかの工夫が必要ではないか。
- ・特別養護老人ホームの整備について、今はニーズが高いけれども、長期で見ると高齢者が減っていく可能性もある中で、長期的に見て本当に必要なものを必要な分だけ整備するという視点が必要ではないか。
- ・DXについて、もう少しペーパーレス化が進むとよい。
- ・子育てについて、「バースデーサポート事業」というのを初めて聞いた。